

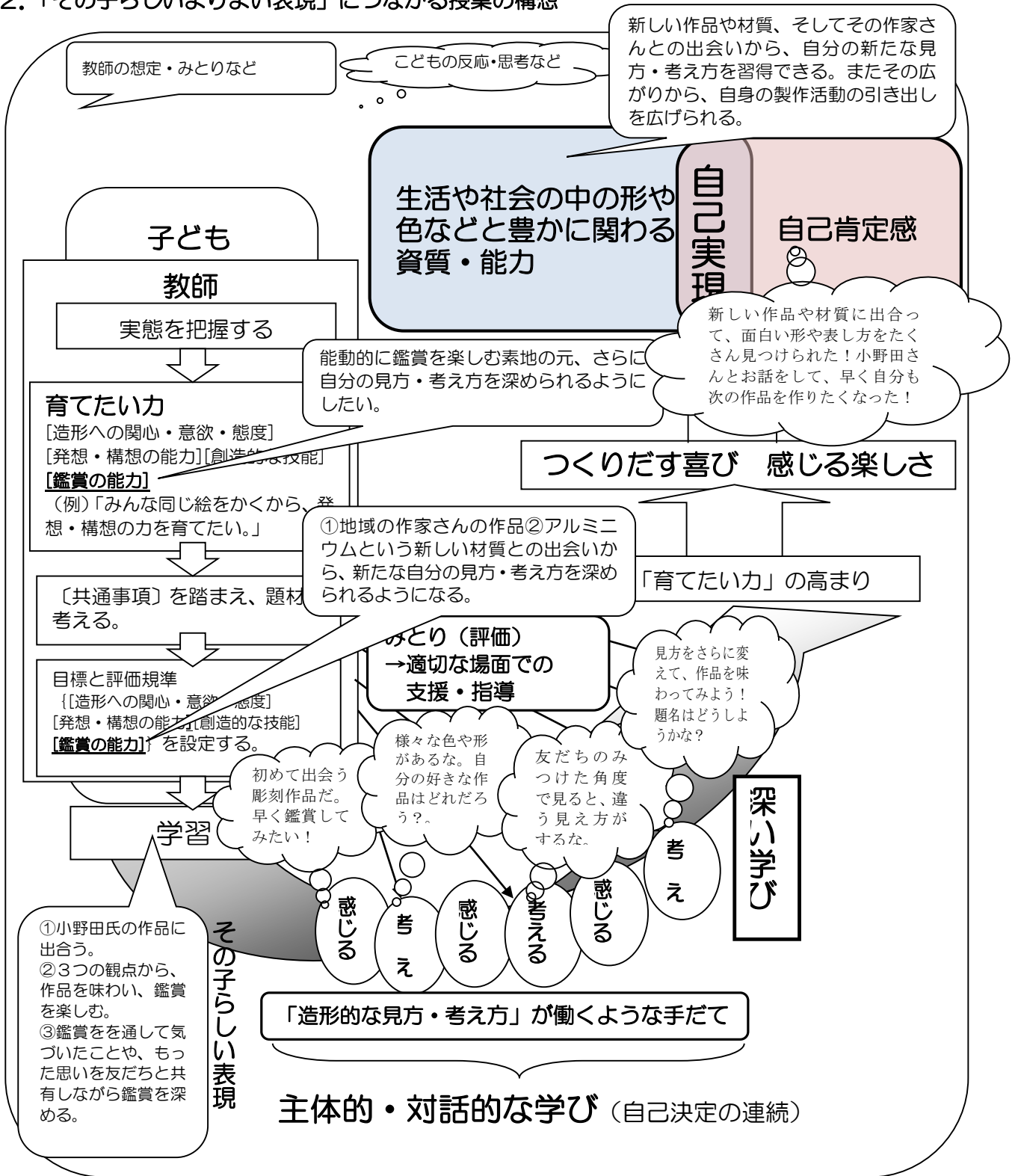
第6学年1組 図画工作科学習指導案

指導者 川崎市立宮崎小学校

小野田 浩士

1. 題材名 「のぞいてみよう 彫刻の世界」 B鑑賞 1時間扱い

2. 「その子らしいよりよい表現」につながる授業の構想



3. 活動場所 体育館

4. 題材観

(1) 子どもたちの実態

普段から図工の時間を楽しみにして、どの題材でも意欲的に表現できる子どもが多い。学年が始まった4月から「自分のやりたいと思ったことは何でもやろう」というテーマを掲げ授業を進めることで、発想構想をふくらませる段階や表現での技法の選択において、自分の考えや意思に自信をもち、のびのびと活動を進められるようになってきた。鑑賞の時間においてもその雰囲気はあり、「鑑賞を通して思ったこと、考えたことに模範回答はない」という前提を踏まえて楽しく鑑賞活動を進めることができる子どもが多い。

4年生のころに岡本太郎美術館に行き、実際の作品を楽しみながら鑑賞した。その際に自分から興味のある作品の前で立ち止まったり、友だちと感想を交流したりする姿が多く見られた。今年度の5月に行った「名前 de アート」では、クラスメイトの作品に興味をもって鑑賞し、色や形に着目しながら様々な作品の良さを楽しむ姿も見られた。作品の作者に「これはどうやって描いたの?」とか「この色はあたたかさが感じられるね」など、自分から意見を投げかける児童も多かった。

鑑賞領域のねらいの一つである「能動的に作品を楽しみ、味わう」という素地は十分にみられる学年である。その素地の元、この学年の児童には多くの作品、多種多様な作品、まだ触れたことのないような美術作品にできるだけ出会わせたいと思う。

(2) 題材と育てたい力

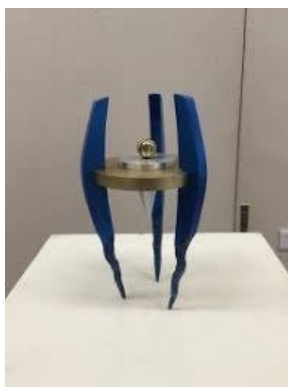
育てたい力：鑑賞の能力

本題材では、自分たちの住む川崎という地域で活動されている芸術家の方の作品に出会い、鑑賞をする。今回は川崎市在住の小野田勝謙さんの作品に触れさせる。小野田氏はアルミニウムを材料に抽象彫刻を作られている作家の方で、今までこの学年の児童があまり触れたことのない作品になる。「アルミニウムという材質を活かした作品」「今まで実際に触れる機会の少なかった彫刻(立体作品)」「同じ地域の方の作品」という三点が、児童の新たな自分の見方や感じ方を深めるきっかけになればとねらっている。

また、今回の彫刻作品が主に抽象彫刻であるということも、児童の学びにつなげたい。鑑賞を通して抽象的な表現の持つ力やその魅力を子どもたちに味わってほしい。そしてその経験や実感が、今後の題材で子どもの中の表現の選択肢につながるようになってほしい。対象物をそのまま描いたり、思いや考えを何かに見立てたり例えたりして具体的かつ直接的に表現するばかりではなく、抽象的な表現の選択肢が増えれば、子どもたちもより自分の思いを形にできると思うからだ。そのため今回はまず、「抽象的な表現の持つ力や魅力」を味わうことを目標にして、その経験がいずれ「抽象的な表現も選択肢に入れて自身の表現を考えられる力」となるように、その第一歩としたい。

さらに、今回は小野田氏にゲストティーチャーとして児童の鑑賞活動に参加していただく。目の前にある作品の作者が、どういう思いをもって作品を作ったのか等を、実際に聞ける機会も学びにいかしていきたい。

小野田氏の
作品



(3) 共通事項(1)

- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
- イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

(4) 造形的な見方・考え方が働くような手立て

～「つくりだす喜び 感じる楽しさ」につなげるために～

- 能動的に鑑賞をしたくなるような作品との出合わせ方
今回は体育館の半分を使い、そこに小野田氏の作品を並べる。まるで美術館のような雰囲気を作り、児童の意欲をかきたてる。また、立体の持つ力や見え方、平面との違いや良さを際立たせるために、事前に作品を真上から撮った写真を事前に児童に見せておく。鑑賞本番では作品に布をかぶせておき、その布をとることで初めて目の前にある「立体」作品との出会いを演出する。
- 材質の特徴をとらえやすくするための比較対象のある出会い
上記の他に、今回は作品との出合わせ方でもう一つ手だてをうつ。アルミニウムという材質の特徴をよりとらえやすくするために、あえて一作品だけ木彫刻作品を会場中央に展示する。児童は木彫とアルミの彫刻を自然と見比べることにより、アルミの特徴を感じたり、見つけたりすることができる。
- 様々な角度から立体作品を鑑賞できるような低い位置での作品展示
今回の授業のねらいの一つに「立体作品を様々な角度から味わってほしい」というものがある。そのため作品はなるべく低位置に展示し、覗き込むことも、見下ろすことも、見上げることもできる展示位置にする。
- いつもと違う雰囲気での作品展示
また、体育館に作品だけを並べた空間を作るというのも、作品に没頭できる雰囲気づくりをねらっている。教室や図工室での展示だと、どうしてもほかの掲示物や生活道具が目に入ってしまうが、体育館に作品だけを展示することによって、まるで美術館にいるような雰囲気を演出した。
- お題による鑑賞の観点の変化と児童間交流の促進
何もなくてただ抽象作品を鑑賞するだけでは、意欲がもてなかったり、何をどう見ればいいのかわからなくなったりする児童も出てくるので、鑑賞のポイントは教師が提案していくようにする。今回は「お題」を提示して、その問いをもとに鑑賞を深めていく。お題は①好きな作品はどれ？②好きな作品の一番好きなアングルはどの角度？③作者になったつもりでその作品に題名を付けてみよう 以上の3つを出す。①ではまずシンプルに、自分の好きな作品を選ぶ。「自分が好き」というのは、何にもまして他の干渉を受けない思いであるので、自由に選びやすく注目する作品とその色や形も様々になる。②では立体作品の特徴を活かして、同じ作品でも様々な角度から見ることによって見え方が違うことを気づかせ、作品をさらに味わう活動をする。③では一番好きな作品に題名と作者の思いを考えることで、さらに作品をじっくりと鑑賞する。このお題で大事なのは、「実際の作者がどう考えたのだろうか？」ではなく、「自分が作者だったら・・・」と能動的かつ自信をもって思いを巡らせることにある。
- 作品から児童が感じたことの可視化
児童がどの作品のどのアングル(角度)に、良さや美しさを見出したのかがほかの児童にも分かるように、「ここから見てみてカード」(指導案巻末に添付)を使用する。この鑑賞カードは、自分が感じたことをその場で他の児童に伝えられるように、床に置くことを目的とした鑑賞カードになっている。カードの上部に描かれている矢印の向きに作品を見ると、そのカードを書いた児童と同じ角度で作品を味わうことができる。
- 見方や考え方を深める作者との対話
実際の作者との交流を通し、作品に対する新たな考え方、感じ方を深める。ただし、ここで注意したいのが、児童の鑑賞活動が「作者の思いは何か？」という正解探しにならないようにすることだ。小野田氏との事前打ち合わせでも「子どもたちには、とにかく自分の作品を自由に感じ取ってほしい」という言葉もいただけているので、そうなるようにしていきたい。そのため今回は授業の終末まで、小野田氏の紹介をしない。

(5) 題材のねらい

- 同じ地域に住む作家の作品、またアルミニウムという特殊な材料の作品に出会い、自分の見方や感じ方を深める
- 抽象的な表現をもつ立体作品の鑑賞を通して、形や色の造形的な特徴を感じ取り、良さや美しさを味わう。

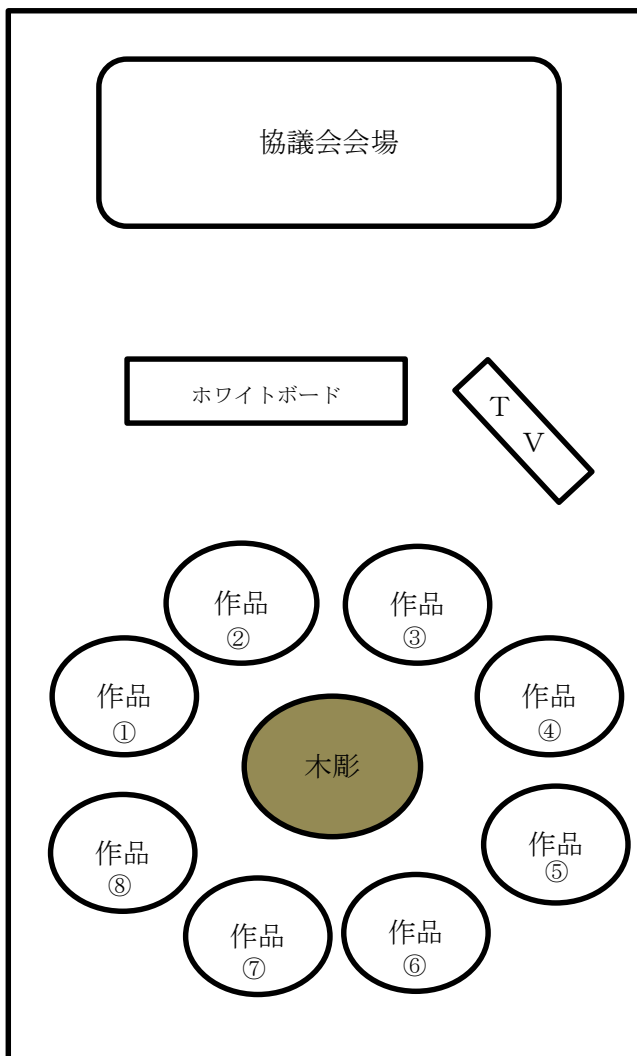
5. 題材の評価規準 ～ 2つの観点から育てたい力を考える ～

造形への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
○同じ地域に住む作家さんの作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ろうとしている。	○アルミニウムという材料や抽象的な表現の形や色に注目し、そこから感じる印象やイメージを想像しながら鑑賞している。

6. 準備

- [教師] 立体作品 鑑賞カード 作品カード(お題③で使用)
- [子ども] 筆記用具 探検バッグ

<会場図>



- 会場の工夫
- ・ 作品には布をかけておく
 - ・ 作品は低位置に展示
 - ・ 作品ごとにデジタルカメラを置く
 - ・ 作品は見回れるように円形に展示
 - ・ 交流しやすいように番号を振る
 - ・ 自由に鑑賞できるように
本当の題名は出さない
 - ・ 前半後半で区切れるように配置

7. 本時の活動（1／1時間 45分）

（1）本時のねらい

- 同じ地域に住む作家の作品、またアルミニウムという特殊な材料の作品に出会い、自分の見方や感じ方を深める。
- 抽象的な表現をもつ立体作品の鑑賞を通して、形や色の造形的な特徴を感じ取り、良さや美しさを味わう。

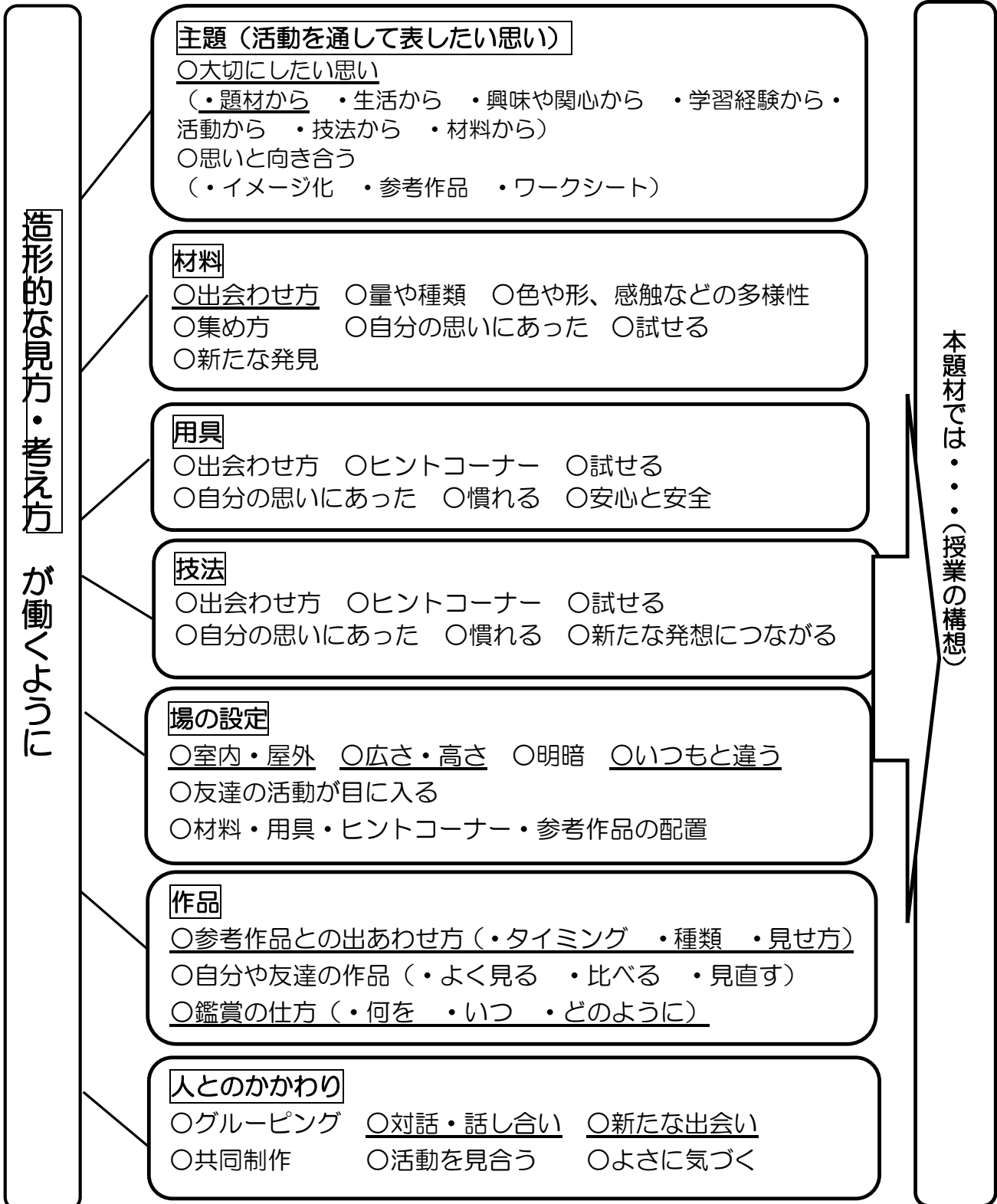
（2）本時の展開

<p>◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応</p>	<p>○教師のかかわり・手だて ◎造形的な見方・考え方が働くような手立て</p>	<p>評価規準【 】と評価方法（ ）</p>
<p>◇真上から作品をとった写真を事前にみて、どんな作品かイメージを膨らませる。</p>	<p>◎小野田氏の作品を、事前に体育館に布をかけて飾っておく。 ◎中央に材質比較用の木彫を展示。</p>	
<p>小野田さんの作品を味わってみよう</p>		
<p>◇お題①「好きな作品はどれかな」 ・「この作品の形が好きだな。」 ◇自分の一番好きな作品の前に集まり、意見交流をする。 ◇お題②「好きな作品の一番好きなアングルはどの角度？」で鑑賞。 ・「見る角度によって受ける印象が全く違うな。」 ◇友だちの素敵アングルを見てみよう。 ◇鑑賞を通して感じたことの意見交流をする。 ・「〇〇さんの角度で見ると、この作品が好きになってきた。」 ◇お題③「作者になったつもりでその作品に題名を付けてみよう」で鑑賞する。 ・「僕はこの作品を『〇〇』と名付けよう。理由は・・・」 ◇全員の作品カードを見回りながら、さらに作品を鑑賞する。 ◇最後に小野田氏の話聞く</p>	<p>◎合図をもとに一斉に作品にかかっている布をとらせる。 ◎観点を変えるお題を出題。 ○アングルを決める際は、作品一つにつきデジタルカメラを一つ置いておき、撮影させる。 ◎「ここから見てみてカード」に記入させ、床に設置させる。 ○作品ごとに前半後半に分けて意見交流の時間をとる。 ○お題②の鑑賞とその交流を経て、再度作品を選ぶ時間をとる(同じ作品を選ぶ児童も認める)。 ◎小野田氏の感想や、聞きたいことがあれば質問させる。 ○ここで『銀河宇宙』の話と、作品に込めた思いも話してもらおう。 ○「イルカ」や「こども」をモチーフにした作品も紹介してもらおう。</p>	<p>【関・意・態】 同じ地域に住む作家さんの作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ろうとしている。 (児童の姿・発言) 【鑑】 アルミニウムという材料や抽象的な表現の形や色に注目し、そこから感じる印象やイメージを想像しながら鑑賞している。 (発言・鑑賞カード)</p>

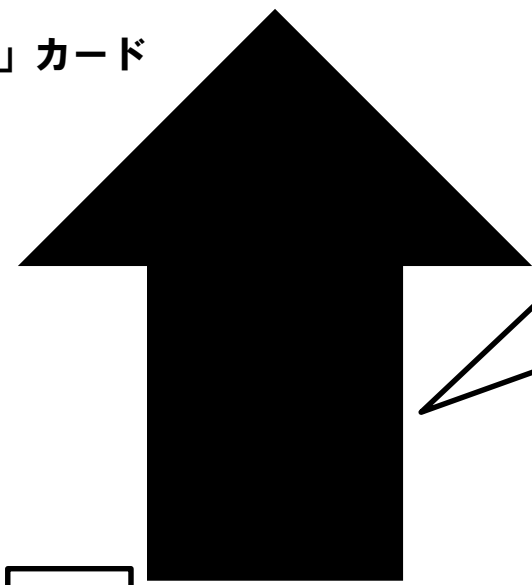
8. 「造形的な見方・考え方」が働くような手立て

「造形的な見方・考え方」が働くような手だて

1. 「造形的な見方・考え方」を働かせながら、主題・材料・技法と関わることができるようにするために・・・
2. 「造形的な見方・考え方」を働かせながら、作品をつくったりみたりできるようにするために・・・
3. 「造形的な見方・考え方」を身につけ、生活に活かせるようにするために・・・



「見てみて！」カード



この角度のポイント
(例)つま先立ちで見下ろすように

作品の番号・・・

この作品をここからの角度で作品を見ると

<この角度で見ると こんな風に見えるよ！ここが素敵だよ！>

※書けたら床に置いて 友だちに紹介しよう！

6年 組 番 名前： _____